

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774201798		
法人名	社会福祉法人 親和会		
事業所名	グループホーム末広		
所在地	大阪府茨木市庄2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成32年1月5日	評価結果市町村受理日	平成32年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成32年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「大家族、ゆっくり、いっしょに、楽しい、くらし」の理念の下、グループホームの特色を生かし、入居者様と出来ることは一緒にしていただくことを職員共通の理解とし、入居者様の生活を職員が支援しています。入居者様に日常の中で役割を持って生活を送っていただき、出来ることは、ご本人様にしていただくことが、ADL向上につながり、さらに、認知症の進行の緩和にもつながると考えています。入居者様には、いろいろな季節の行事に参加していただいたり、敷地内に畑を設けて、農作物の収穫などを通して、季節感を味わっていただくように心掛けています。近隣の公園への散歩やスーパー等への買い物や地域の行事への参加など、外出の機会も多く設け、筋力向上や地域との接点を持つように取り組んでいます。また、社協に登録されているボランティアの方や近隣の地域の方に来ていただいたりすることで認知症の方のことについての理解を深めていただけるように、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体の社会福祉法人親和会は、グループホームの他に認定こども園を2園、保育園を1園運営している。当事業所は、最寄りの私鉄駅から徒歩5分と利便性は良く、線路から1本路地を中に入っているため、交通量はさほど多くなく、利用者の散歩にも適している。事務所部分のみ2階建てになっているが、事業所は平屋の1ユニットで、木の温かみを感じられる。自治会に加入して地域の行事に参加し、天気の良い日にはできるだけ散歩に行き、敷地内にある畑で野菜を植えたり、ウッドデッキで足湯をしたりお茶を飲んだりして、外気に触れる機会を作っている。最近では職員の異動があつて人材の確保に苦労しているが、職員は皆で協力し、事業所の理念である「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」が実践できるように利用者を支援している。職員間の関係性は良好で、互いに尊敬や思いやりの気持ちを持って日々の業務に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」を理念に掲げ、それを具現化して現場で実践できるように取り組んでいる。	法人の理念とグループホーム独自の理念が事務所に掲示されている。「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」をグループホームの理念とし、利用者のペースに合わせて、楽しいと思えるような行事や、自分のできることをしてもらいながら生活できるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に所属して、地域の行事や地区清掃などに参加させていただき、交流を深めるように取り組んでいる。	自治会に加入し、地域の清掃活動に参加している。ふるさと祭りや地域の運動会、秋には神輿見物等で地域住民との交流を深めるよう努めている。利用者と一緒に買い物や散歩に出かけ、地域とつながりながら生活している。また裁縫や手品、ハーモニカ等の地域のボランティアを毎月受け入れている。	地域と交流するよう努めているが、最近では人材の確保が難しくなり、利用者を支援して外出する機会が減っている。事業所には素敵なウッドデッキがあるので、それを活用して近隣の人たちに事業所の存在を知ってもらい、気軽に訪問してもらえるような憩いの場所にすることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの受け入れ、地域の人たちをホームの行事に招くことで認知症の方の理解等を深めるように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価、実地指導等の結果報告及び説明行い、意見をいただくように取り組んでいる。	偶数月の日曜日の午後、家族会開催後に運営推進会議を開催している。参加者は地域包括支援センター職員、民生委員2名、家族代表で、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりの報告を行い、参加者から意見や要望を聞くようにしている。会議録は家族が訪問した時にいつでも閲覧できるように玄関に設置している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	用事の際には、顔を出すようにして、そこで情報交換を行うようにしている。また、市から派遣される介護相談員と連携を図るように取り組んでいる。	市から委託を受けた介護相談員が、毎月2回1名ずつ訪問している。生活保護の利用者の受け入れや、介護保険のことで分からないことがある時には、市役所に出かけて相談するようにしている。グループホーム連絡会に参加し、市町村との連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施。 事業所の理念の中に身体拘束の廃止を含めており、実践している。必要な場合、同意を得て、記録を残すようにしている。	年1回事業所内で身体拘束について研修を行っている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の弊害について話し合っている。玄関は施錠しているが、利用者が外に出たそうにした時には、散歩に出かけたり気分転換を図って、閉塞感を感じないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、管理者が説明を行い、疑問点を尋ねながら、懇切、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 家族会でのご家族様と入居者様との個別面談を月に1回実施している。	毎月第2日曜日に家族会を開催し、利用者の生活の様子を個別に家族に報告している。その際に家族から運営に関する意見や要望を聞いたり、介護に関する相談がある時には対応している。玄関に意見箱を設置し、家族会や面会時に要望を聞いて運営に反映させる体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングなどで意見を反映している。	法人代表はスタッフミーティングに参加したり、事業所へ利用者の様子を見に来るなど、職員と関わる機会が多い。スタッフミーティングでは、運営に関する意見や提案を話し合うが、主に研修を行うことが多い。職員から研修に行きたいと希望があった場合には、休暇を利用して参加しているが、研修費は法人で支援している。	研修計画に沿って、スタッフミーティングの時間を利用して研修を行っているが、運営に関することや業務に関する職員の意見が、十分に話し合われて反映されていないように見受けられる。今後、人材確保や業務の改善について十分に話し合うことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員全体の給料処遇改善を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施。月1回のスタッフミーティングでの定例学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡部会等へ参加して、意見交換等を行い交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査、施設見学、個別面談を通して、信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査、施設見学、個別面談を通して、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談を受け入れ、よく話を聞いた上で事業所の説明、他の事業所の説明を行い、その他、必要なサービス等についての情報提供をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは、出来る限り、入居者様と職員で協力して行うことを旨とし、互いに対等な関係を保てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、外出の機会を通して、入居者様とご家族様と職員で支援をしている。また、当ホームに来所が困難なご家族様には末広通信やホームページを利用して必要な情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、入居者様がこれまで使用してきたもの等を引き続き使用していただくようにしている。また、入居者様の知人様の訪問も受け入れている。	利用者が店をしていた頃の馴染みの客や、努めていた頃の職場の友人が事業所に訪問してくれたり、散歩の時に見かけて声をかけてくれる。行きつけの美容院や買い物、食事に連れて行ってくれたり、一緒にパチンコに行ってくれる家族がおり、馴染みの関係性が途切れないような支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でお互いに役割を持っていただくことで、作業等を協力して行えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、一度は、訪問して様子をうかがうようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームでは、これまでの生活を基盤にして生活を継続出来るように支援をしている。さらに、必要に応じて再アセスメントも実施している。	利用者の意向を聞いても実現できないこともあるが、できるだけ意向が反映できるように介護計画書を作成している。なかなか意向の言えない利用者には、散歩の時や入浴時の気持ちがリラックスしている時に聞いたり、家族会の時の家族との個人面談時に確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様からの情報を基にして入居者様の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝に関しては希望に添えるように取り組んでいる。趣味を考慮したレクなどへの参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して、入居者様、ご家族様、管理者、計画作成担当者、担当介護職員で話し合って作成している。	モニタリングは3ヶ月に1回、職員からの情報を基にケアマネジャーが行っている。介護計画書を作成する場合は本人、家族、介護職員、ケアマネジャー、主治医の意見を参考にし、利用者の意向を反映するようにしている。サービスが開始されるまでに本人または家族に計画書の説明を行って同意を得るようにしているが、訪問の少ない家族には連絡して訪問してもらって同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員はケアの中で気づいたことを記録するようにひとり一人心掛けています。内部研修の実施。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、個別送迎などで、外出に出かけて、買い物などをしていただくようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアセンターを通してボランティアの方に来ていただき、交流を図り、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は出来る限り、入居者様がこれまで通院されていた病院の主治医の下で受診できるようにご家族様の協力を得ながら、支援をしている。	事業所のかかりつけ医に診てもらっている利用者は5名で、他の利用者は家族が受診に同行したり、事業所に往診してくれている。家族が受診に同行した場合は、受診結果や薬の内容の報告を受け、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の診療所の医師、看護師に適宜相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院の医師、看護師等と連携を図りながら、必要な情報があれば提供するようにしている。また、退院の際は、入院中のご本人様の情報を聞いて、退院に備えて情報を提供していただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、入居者様、ご家族様の思い、医師の見解を確認しながら、話し合い等により支援の方法を決定している。	入居契約時に、重度化した場合や終末期について利用者、家族に説明している。重度化する前に事業所でできることやできないことを説明し、最終的にどこで終末期を迎えるかを判断してもらっている。事業所で看取る体制はできており、開設以来看取りの事例が3件あるが、協力医以外のかかりつけ医に診てもらっている利用者も数名おり、その人への24時間対応は困難である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習とAED講習を定期的に実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員立ち会いの下、消防訓練を実施。	防訓練計画書を作成し、年2回事業所独自で自主訓練を行っている。火災、地震、水害等の災害時のマニュアルを整備し、災害時の避難場所を職員は熟知している。避難用に多めに車椅子を準備し、散歩時に利用者と一緒に避難場所まで歩いている。	迅速に避難ができるよう車椅子を多めに準備して、散歩時に災害避難場所まで利用者と一緒に実際に歩くことは称賛される。しかし災害はいつ起こるかわからないため、賞味期限切れになった非常食は早急に補充しておくことが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り、その方の思いを実現できるように取り組んでいる。	接遇研修や個人情報保護に関する研修を年1回ずつ行っている。利用者の居室に入る際には必ず声かけをしてから入り、排泄時の誘導も他利用者に気づかれないようにするなど、利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう対応している。記録の記載はフロア内で行っているが、利用者の目に触れないように配慮し、書類関係は鍵付きの書棚で保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定出来る範囲で尊重して、行事、企画、レクリエーション、外出などを支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様のニーズを尊重するように心掛けているものの、希望に添えていない部分もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ馴染みのある美容院等へ行っていただけるように、ご家族様にお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、それぞれ役割を持って、調理、準備、片付けを職員と一緒に実施している。	メニューの作成と食材の調達配食業者が行っている。利用者は職員と一緒にテーブルを拭いたり、盛り付け、洗い物等の役割を持ち、自分達のことを行っている。外食には行っていないが、イベント食の提供や手作りおやつでケーキを作ったりして、食事を楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の記録の実施。水分を取りやすいようにお茶、ジュースなど種類を増やして提供している。栄養管理は、食材会社の栄養士の方がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施。月2回の歯科往診の実施。夜間は、義歯を消毒実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導により、出来るだけ入居者様が望まれる排泄の方法で出来るように介助等を行っている。	自分でトイレに行って排泄する利用者もいるが、ほとんどの人は排泄パターンに合わせ、職員の誘導でトイレに行っている。入居時はオムツを使用していた人が、今はリハビリパンツに替わり、トイレで排泄できるようになった例もある。夜間は1名のみオムツ交換を行っているが、声かけしてトイレ誘導を行い、利用者の望む排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションで体操をしたり、天気の良い日には、散歩に出かけたりと、出来るだけ体を動かしていただくことで便秘の予防を図っている。毎日、野菜、乳製品を食べていただいて便秘の予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、出来る限り、入居者様の希望に添えるように取り組んでいる。	週2回午前中に、1日4人ずつで30分位の入浴を行っている。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯等季節が感じられるようにして入浴が楽しみになるように支援している。入浴を嫌がる利用者には対応する職員や時間を替えてタイミングを見図りながら入浴してもらっている。普段なかなか意向が聞き出せない利用者も、入浴時には気持ちがりラックスして話してくれることがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、臥床、休息が必要であれば、随時、居室等で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬を当ホームで預かり、職員がセットすることで、全職員が理解出来るように配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り入居者様が望まれるレクリエーション、外出、企画、行事を実施して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ入居者様の希望に添って、買い物、散歩、地域の行事等への参加など外出の機会を設けている。 外出先の希望も聞くようにしている。	天気や気候の良い日には、できるだけ散歩に行くようにしている。事業所の敷地内に畑があり、サツマイモやトマト等の野菜を植え、利用者は職員と一緒に水やりを行っている。ウッドデッキでお茶を飲んだりして外気に触れる機会を多く設けている。また地域の行事に参加したり、家族と一緒に買い物や墓参りに行く利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で入居者様の所持金を預かり、必要に応じて買い物などに出かけて、使用していただくようにしている。 使用された金額、残高をつけて管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、事務所の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節ごとの行事の写真の掲示や季節に応じた飾り付けなどで季節感を少しでも実感出来るように配慮している。	天井が高く、リビングの窓は大きく明るくて日差しが入り、とても開放感がある。利用者の高齢化や重度化に伴い、最近では利用の頻度は減って来ているが、畳の部屋が設置されて寛げる空間になっている。ウッドデッキに植えられている四季折々の花をリビングから眺めて、季節を感じることができる。ウッドデッキで足湯をすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに和室があり、馴染みのある入居者様同士もしくは一人で過ごしていただく場としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居者様がこれまで使い慣れてきた品々を使用していただけのように配慮している。	好きな色や柄の防災一テンを窓に飾り、今まで使っていたベッドや、起き上がりやすいように電動のベッドを使用している利用者がいる。大切な家族の写真や仏壇を部屋に持ち込んだり、自分の部屋を自分で掃除する利用者もいて、本人が居心地良く過ごせるような居室の作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす用のトイレ、浴室、廊下、居室のベッドに手すり等を設置。		